

薄暮からの聖譚曲  
オラトリオ

西の空から歌声がきこえる

茜の地平に歌声は広がる

一本道に歩みを止めて

きき惚れるわたしの瞼は熱い

東の空から歌声がきこえる

藍のヴェールに歌声は重なる

彼方に滲む山影もみな

包みこむ帳に瞳は馴染む

仰ぐ天には歌い手が連なる

沈む空気に楽の音は満ちゆく

その瞬きが織り成す響き

降りそそぐ調べは清かに映る

響きの中にわたしは探す

懐かしい人のあの眼差しを

調べに寄せてわたしも祈る

永らく叶わぬ世の平安を

涙のうちに想いを馳せる

はやいかゆつくりか この地球の旅

やがて宵闇の向こうがわには

幾千億の歌い手が煌めく

宙に焦がれるわたしの胸に

彼等の詠唱は ごく静かに熔ける

付曲に際しての注意事項

- ・ 詩句の繰り返し…可
- ・ 詩の一部省略…不可(ただし、作中の5行目「東の〜」から8行目「〜馴染む」までの4行部分については、省略しないこととを基本としつつ、付曲上の発想をはじめ、演奏時間・演奏者の負担を鑑みた場合等の特別の事情に応じ、4行部分全体を一団として省略する形に限り、差し支えない)
- ・ ヴォカリーズ(母音唱法)の追加…可(ただし「ああ」「おお」などの感動詞としての追加は不可)

右記以外の詩の変更は不可

恋といふらむ

一 紫陽花が 咲く前に

も一度 貴方に逢いたくて

昔 もらった業平の

和歌集と行きます 貴方が好きなあのお寺

「しのぶの乱れ 限りしられず」

下の句だけは覚えていました

乱したあの日を忘れてと

もう二度ときよならなんて言いません

二 紫陽花の 花言葉

移り気 あれから三月過ぎ

昔 もらった業平を

読みに来ました 貴方の好きなあのお寺

「身をしる雨は ふりぞまされる」

上の言葉を見つけたときに

貴方の思いに泣きました

降る雨に逢えないなんて言わないで

「人はこれをや 恋といふらむ」

下の句だけは覚えていました

上の句詠って返します

「紫陽花 紅く頬染め 香を紡ぐ」

付曲に際しての注意事項

・詩句の繰り返し…可

・ヴォカリーズ（母音唱

法）・感動詞（「ああ」「お

お」など）の追加…可

右記以外の詩の変更は不可

夏のおわりに

ゆうぐれに かげはのびて

ひまわりは うつむいた

こどものころに

おぼえたうたを

かぜのなかに うすくとかした

よるがくるまで まだ かえらない

なつのおわり

なつのおわりに

ゆうやけが くもをそめて

ひぐらしは こいのうた

ゆうべのはなび

ちいさなひみつ

むねのなかで あかくそまった

ほしがでるまで とおまわりして

なつのおわり

なつのおわりに

付曲に際しての注意事項

・詩句の繰り返し…可

・詩の一部省略…可

・ヴォカリーズ（母音唱

法）・感動詞（「ああ」「お

お」など）の追加…可

右記以外の詩の変更は不可

とりにあうたびに

とりにあうたびに

わたしはふえをふく

とりのことばはわからないけど

とりのうたならわかるから

とりにあうたびに

わたしはかけをおう

とりのようにはゆけないけれど

こころはこんでくれるから

とりにあうたびに

わたしはよびかける

およめさんをさがしているのね

わたしはなれないけれども

とりにあうたびに

わたしはとびあがる

いまはつばさをもたないけれど

いつかとべるとおもうから

付曲に際しての注意事項

- ・ 詩句の繰り返し…可
- ・ 詩の一部省略…可
- ・ ヴォカリーズ（母音唱法）・ 感動詞（「ああ」「おお」など）の追加…可

右記以外の詩の変更は不可

今木漏れ日が揺れている

今木漏れ日が揺れている

遠い昔に星が生まれ

星から生まれた星くずが

数えきれない奇跡を重ねて

やっとあなたが生まれた

繰り返す日々はいいことだけじゃなくて

つらくて泣きたいこともあるけど

一人一人が星くずの響きを受け継ぎ

いのちを繋いでいるんだ

心を澄ませて

胸の中に広がる星の響きに

耳を傾けてみよう

他の誰にも辿り着けない心の奥に

あなたが生まれた奇跡のうたが

聞こえるはずだ

生きている意味なんか分からなくても

あなたがそのままのあなたでいること

それはかけがえのない星からの贈り物

今木漏れ日が揺れている

今それを見ているあなたがいる

付曲に際しての注意事項

・詩句の繰り返し…可

・詩の一部省略…可

・ヴォカリーズ（母音唱

法）・感動詞（「ああ」「お

お」など）の追加…可

右記以外の詩の変更は不可

早く迎えに

遠き国 草生す野辺に

わたしは眠っています

夢に見るふるさとの山

帰りゆく日のあらむ

雨に打たれ日に晒され

八十年のながきとき

花の根に朽ちゆく前に

早く迎えに来て欲しい

わたつみの 碧き静寂に

わたしは眠っています

揺蕩いつ祈る言葉は

戦なき世の永遠に

父母は去り妻もまた去り

愛し吾子らの待てる

さくら咲く春の佳き日に

早く迎えに来て欲しい

付曲に際しての注意事項

- ・ 詩句の繰り返し…可
- ・ 詩の一部省略…可
- ・ ヴォカリーズ（母音唱法）・感動詞（「ああ」「おお」など）の追加…可
- ・ 第4連1行目は  
父母は去り妻も去り  
に変更可

右記以外の詩の変更は不可

註 先の戦争で戦死した未帰還のご遺骨について。

厚労省によれば2023年時点で未収容のご遺骨112万柱・この内収容可能なご遺骨59万柱・海没のご遺骨30万柱・相手国の事情により収容困難なご遺骨23万柱。

海

あの人の骨は舞うように

海に帰っていった

はるばると旅をして また

あたらしい命になるのだろう

私も海からやってきた その証拠には

とてもかなしいことがあったとき

とてもうれしいことがあったとき

溢れる涙は暖かく頬を伝わって

海の味がした 涙は海の味がした

むかしむかし ずっとむかしのころのこと

果てない宇宙を驀進する地球の

混沌の海に生まれた命

三十七兆の細胞のヒト 東の間の命は

私だけの心を抱いて詩をうたう

海に帰った命は またあたらしい命は

不思議な糸に導かれ

また会うことができるだろう

また会うことができるだろう

付曲に際しての注意事項

- ・ 詩句の繰り返し…可
- ・ 詩の一部省略…可
- ・ ヴォカリーズ（母音唱法）・感動詞（「ああ」「おお」など）の追加…可

右記以外の詩の変更は不可